

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	栃木県
-------	-----

I 学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	河内町立古里中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数 24
学級数	4	3	4	1	12	
生徒数	117	98	131	1	347	

II 研究の概要

1. 研究主題

基礎・基本の確実な定着化

2. 研究内容と方法

(1)実施学年・教科

全学年・全教科
それぞれの教科の特性に応じて、評価の改善という点から基礎・基本の定着を図ろうと全職員で方針を定めたため。

(2)年次ごとの計画

平成14年度

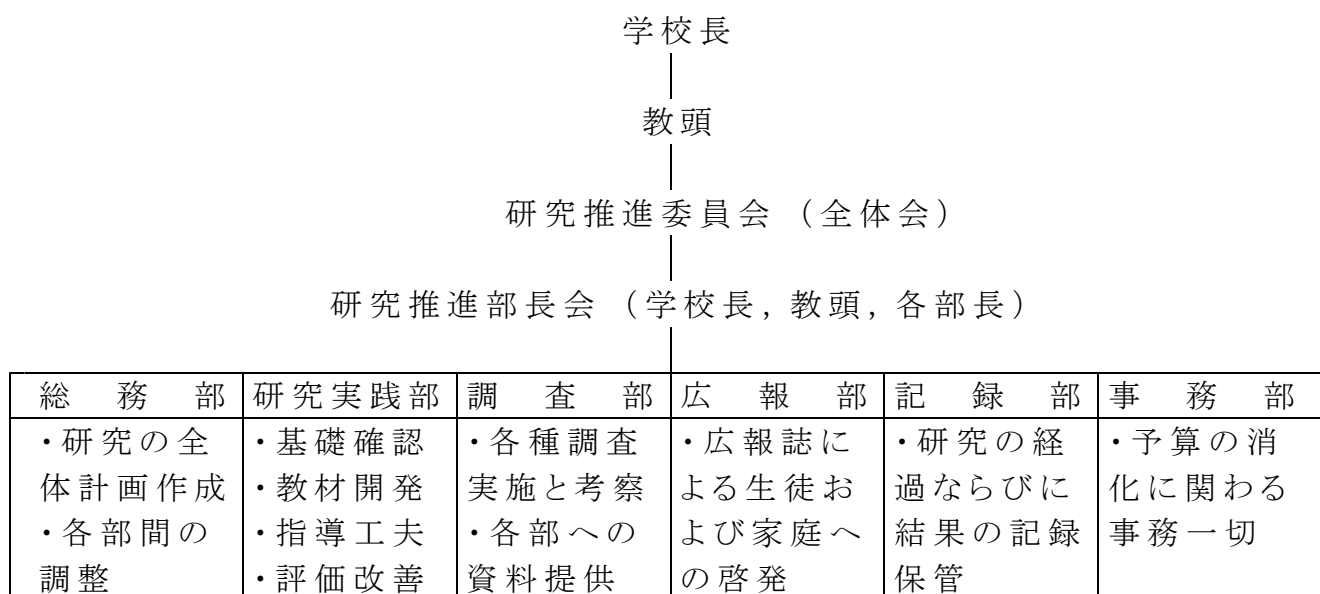
- テーマ
基礎・基本を確実に定着させるための授業の実践
- 研究の見通し(仮説)
自ら学び自ら考える力など「生きる力」の基盤をなすものは「基礎・基本」であり、基礎・基本の定着は、適切な評価活動とその結果を踏まえた不断の指導改善によって実現される。
- 研究の内容・方法
 - ①要請訪問による趣旨の確認
 - ②先進校視察
 - ③工藤文三先生(国立教育政策研究所)を招聘しての講演会
 - ④中間まとめ

平成15年度

- テーマ
基礎・基本の確実な定着化
- 研究の見通し(仮説)
学習を習慣化させ、基礎・基本をしっかりと理解させ身につけさせることで、自ら進んで学ぶ意欲が高まるであろう。
- 研究の内容・方法
 - ①先進校視察・公開研究発表校参加
 - ②要請訪問による研究内容の成果と課題の確認
 - ③研究授業による授業研究(数学, 英語)
 - ④小田勝己氏(城西国際大学)を招聘してのルーブリック(評価指標)に関する研修会
 - ⑤シラバスの作成
 - ⑥パーフェクトマスター(読み書き計算の練習)の実施
 - ⑦工藤文三氏(国立教育政策研究所)を招聘しての研修会※予定
 - ⑧中間まとめ

平成16年度	<ul style="list-style-type: none"> ○テーマ 基礎・基本の確実な定着化 ○仮説 学習を習慣化させ、基礎・基本をしっかりと理解させ身につけさせることで、自ら進んで学ぶ意欲が高まるであろう。また、評価の改善を実施することにより、子どもたちの良さを積極的に認める中で、さらに意欲が高まるであろう。 ○研究内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> ①要請訪問による研究内容の成果と課題の確認 ②公開研究発表会 ③まとめ
--------	---

(3)研究推進体制



※全教科で研究実践に取り組んでいるため研究実践部には各教科主任が所属

Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

平成14年度に続き、今年度も新教育課程実施状況調査を実施したところ、各教科とも通過率を上回る項目がいくつか見られた。また、数学や英語では少人数指導を行っているが、生徒達にアンケートをとってみると、授業に集中できる、先生が一人ひとりよくめんどろをみってくれる、質問しやすいなどのよい点をあげている。生徒達が以前に増して学習への意欲を高めているようである。さらに、各教科でシラバスや自己評価表の作成、評価規準の見直しに取り組む中で、生徒達のよさをさまざまな観点から積極的に認めていこうという気運が高まっている。

2. 今後の課題

今年度は新しい試みを実践してきたが、単発的で体系化がなされていない。また、それぞれの比較や有用性の検証も不十分であり、客観的なデータをとりながら、2か年に渡る研究をまとめていきたい。

IV 学力把握のための学校としての取組

7月	新教育課程実施状況調査	各教科の観点別到達状況の把握のため
		※前回比を確認
毎時あるいは毎単元	自己評価	習得状況の把握と授業改善のため
各単元前	事前テスト(数学)	少人数学級編成資料のため
毎学期	アンケート(学習への取り組み状況)	学習方法の改善を促すため

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及について

公開研究発表会(平成16年度)
平成16年度河内地区学力向上推進協議会

【新規校・継続校】 14年度からの継続校
【学校規模】 10～12学級
【指導体制】 少人数指導(数学, 英語)
【研究教科】 全教科(特別活動, 総合的な学習の時間を除く)
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有